



## ◆生育状況について

現在の生育は、昨年より3～4日程度遅れている。今後も気温が高く推移する予報が出ており、生育は早まる可能性があるため、園地の状況を確認して管理作業など遅れないよう注意する。

### 1. JA管内 生育

品種	ナガノパープル			シャインマスカット		
	発芽	開花	満開	発芽	開花	満開
平年	4 / 24	6 / 1	6 / 8	4 / 26	6 / 7	6 / 11
令和7年	4 / 20			4 / 22		
令和6年	4 / 17	5 / 25	6 / 2	4 / 20	6 / 1	6 / 5

## ◆当面する重点作業

1. 強風で新梢が欠損した箇所は誘引をし直し空間を埋める。
2. 品種ごと満開までに段切りが終了するように、適期に作業をすすめる。
3. 薬剤散布を適期に十分な散布量で実施する。降雨が続く場合は、散布間隔を10日以上空けないように晴れ間を見ながら散布する。また小雨の場合は、雨中でも散布を行い、病気の発生を防ぐ。
4. 天候不順や樹勢が不安定で、キャップの飛びが悪い園は梅雨による灰色かび病発生やサビ果となるので、薄手袋をはめるなどして幼果房面を軽くこすり花カスを取り除く。

## ◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期：展葉8～9枚頃 散布日 月 日
2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10mℓ	—	—
ペンコゼブ水和剤	100g	べと病・つる割病・晩腐病・黒とう病・灰色かび病	45日

3. 散布量：10a当り＝2500ℓ以上
4. 留意事項
  - ①べと病の初発生(伝染)を防ぐ重要な時期、丁寧に散布する。SSで散布の場合は回転数を低くして吹き付けるようにする。
  - ②べと病防除のため、今回防除から開花直前防除まで、散布間隔が空いてしまう場合は、キノンド一颗粒水和剤1,000倍(水100ℓ当り100g)の特別散布を行う。

## ◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期：開花直前 散布日 月 日
2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。 ※よく攪拌して使用すること

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10mℓ	—	—
アーデントフロアブル	50mℓ	ヨコバイ類・スリップス類	前日
オーソサイド水和剤	125g	灰色かび病・べと病・晩腐病・白腐病	30日

3. 散布量：10a当り＝3500ℓ以上
4. 散布上の留意事項
  - ①重要な防除とり、房切の傷を治療する効果もあるので穂軸の内部までしっかりと散布する。
  - ②うどんこ病、灰色カビ病の発生が心配される園はオンリーワンフロアブル2,000倍(水100ℓ当り50mℓ)を加用散布する。
  - ③アーデントフロアブルに代えて㊸イカツチWDG1,500倍(水100ℓ当り66g)を使用してもよい。

## ◆管理講習会開催について

下記日程により、開催致しますので、都合の良い会場にご参加下さい。なお、種あり巨峰については個々に果樹技術員までご相談下さい。

開催日	曜	集合時間	開催場所	担当
5月22日	木	午後 1:30	東条 中村忠勝様園	伊藤
			真島 小林芳春様園	根津
			綿内 安藤周三様園	寺澤
		午後 3:00	松代 萩原久光様園	伊藤
			綿内 宮沢文広様園	寺澤
5月23日	金	午前 9:30	東部流通センター（現地へ移動開催） 駐車はセンターの南側へ。	外谷
		午前 10:00	今井 千野しげ子様園	松橋
		午後 1:30	石川 南澤ひろ江様園	徳武・佐藤
			保科 伊藤哲也様園	寺澤
		午後 3:00	塩崎 宮寄正一様園	徳武・外谷

## ◆種なしぶどうフラスター液剤の散布について

フラスター液剤の使用回数は年2回ですが、開花前と満開後の併用（2回）使用した試験事例は少ないので注意（基本どちらか1回使用）

### 1. 種なしぶどうの新梢伸長抑制対策技術

散布日 月 日

#### 1) 使用内容

品種	倍率	使用量 水100ℓ当	散布量 水/10a当	散布時期
シャインマスカット	500~1,000倍	200~100 ml	150~300ℓ	満開後10~20日 収穫60日前まで
ナガノパープル	500倍	200 ml	150 ℓ	
ピオーネ	500~1,000倍	200~100 ml	150~300 ℓ	

※詳しくは講習会にてお知らせ致します。

## ◆種なしぶどう開花前摘心（着粒安定、果粒肥大効果）について

着粒安定、果粒肥大のための必須作業。

1. 時期：開花3日前～満開期（房切り時）
2. 100cm以上の新梢は、先端部分を軽く摘む（図1）。  
80cm程度しか伸びていない新梢も着房させる場合は摘心する。
3. ナガノパープルは、園地内で開花を確認し実施する（他の品種の摘心時期は多少前後してもよい）。

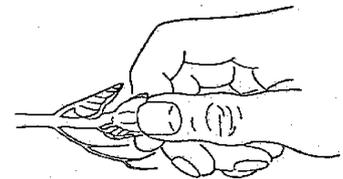


図1 摘心の方法  
(未展葉部分を摘み取る)

## ◆種なしぶどう開花前の花穂の整理について

1. 花穂先端の形状が確認でき次第、1新梢1花穂としてもよい。（ただし、作業に慣れていない場合は房切り時等に折れやすいので、2回目のジベレリン処理前までに1房とする。）
2. 形状がすらっとしている房で、下向き～横向きの花穂を残す（第1、第2花穂どちらでもよい）。
3. 生育の遅れている新梢や弱い新梢は早めに1花穂とするか空枝にする。
4. 着粒が心配される極端に強い新梢は2花穂残しておき、2回目のジベ処理前に1房に整理する。

## ◆種なしぶどう房切り（花穂整形）について

1. 時期：花穂が伸びきり、房の上部が咲き始めた頃～満開期前（残した花穂が80%咲いた時）。
2. 花穂長の目安は

品種	開花始	満開時
無核巨峰・ナガノパープル・シャインマスカット・クイーンルージュ®・ピオーネ・クイーンニーナ	3 cm	3.5 cm

→穂軸が太く先端がすらっとまっすぐな花穂を残す。

→先端が二股のものは、他に良い房がなければ、二股の片方を落として整形しても良い。

→扁平で帯状の花穂、先端がわん曲している花穂は落とすか、上段支梗（上から3～4段目）を使う。

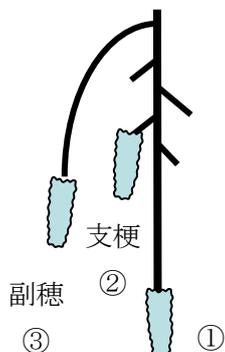


図2 穂軸は折れやすい！

房切りの順序は、次のように危険分散する。

まず、主穂先端部①を整形する。

→成功したら、①を利用する。

→①の整形時に穂軸を折ってしまった場合は

②または③を整形する。（②は上から3～4段目）

注意点：副穂はできるだけ利用しない。

①～③は開花期が異なる。

②、③は開花期が早い。

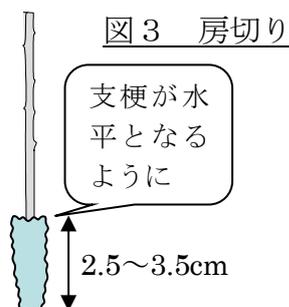


図3 房切り

※上段支梗を利用する場合

最上部の支梗を利用した場合、摘粒や袋掛け作業がやりにくいので、軸長が確保できれば、3～4段目の支梗を利用する。

## ◆定期的なかん水について

1. 晴天が7日続いたら20～30ミリ程度のかん水を行う。（砂を含む土は4日）  
※10aに1ミリのかん水をするには、水1,000ℓが必要。樹冠下に行く。
2. 種あり巨峰の場合は、開花前から開花中でのかん水は控える。
3. 種なし品種の場合は、シャインマスカット以外の品種は、開花前～第1回ジベレリン処理の間は、定期的に灌水し、土壌水分を一定に保つ。シャインマスカットは、たっぷりの灌水を抑える。

## ◆種あり巨峰について

1. 種あり巨峰へのマルポロン(ホーサン)の葉面散布について

結実の安定を図るため、下記要領で散布する。

- 1) 散布時期：開花7日前と2日前の2回

散布日 月 日

- 2) 調合量：水1000ℓ当り

農薬名	使用量	備考
展着剤	10mℓ	—
生石灰	300g	薬害防止のため加用
マルポロン	300g	—

- 3) 散布量：10a当り⇒1500ℓ

- 4) 散布上の留意事項

①日中の高温時には散布しない。②フィロキセラの被害樹などで樹勢の弱い樹は必ず散布する。

2. 種あり巨峰の房作り（花房の切り詰め）の実際について

- 1) 時期

手間さえあれば、1～2輪咲き始めた頃一気にやりたい。

花穂が黄色くなった頃で、満開1週間前（咲き始めの2日前）頃が適期。

開花初めの展葉数は、強めの新梢13枚、中庸10枚、弱めの新梢7枚。

## 2) 方法

①早くから行う場合は、副穂の切除からスタートし、満開までに穂先をつまみ取る。

②房切り後の花房の長さの目安

房切りの時期	房切り後の花房の長さ
開花7日前頃	4～4.5 cm
開花始め	5 cm
満開時	5.5～6 cm

枝の強弱	摘房の程度
強い枝 (攻撃的なへびの頭部様の状態)	第1・第2の花穂を残す。特に強い場合は、第3の花穂も残す。
中位の枝	念のため第1・第2花穂を残す。結果的には第2花穂が良い。
中位の枝に次ぐ弱い枝	第2花穂のみとする。
さらに弱い枝	第1花穂のみとする。(第2花穂の無いときもある)
最も弱い枝	空枝とする。

③作業が遅れた場合は、上段の枝梗と穂先の切除を同時に実施する。

④短期間に効率よく実施するために、一通り誘引を行い、花穂を棚下に降しておく。

但し花穂が番線と接しないようにしておく。

⑤房先15～16段を目安に、支梗段が左右平衡(水平)になる部分まで落とす。

⑥穂軸の太いしっかりした花穂を残すが、棚下に向けた物を優先する。

## ◆「種あり巨峰」への追肥について

「種あり巨峰」は、チッソの減肥・フラスター散布・かん水停止等で徒長を抑え、着粒確保を図ってきたが、満開期以降は一転して樹勢の強化充実・果粒肥大の対応技術(チッソ施肥・かん水・新梢整理・摘房・摘粒)を講じることが秋落ちを防ぐために重要となる。

1. 施肥時期：開花期間中に施す。施用していない園では早急に施す。

2. 施肥量：有機専科10a当り3袋・ノルチッソ10a当り1袋

3. 施用上の留意事項

①吸収を早くさせ果粒肥大等の効果を上げる為、雨の無いときは、かん水と併せて行う。

②樹勢に応じて施肥量を加減するが、樹勢の強い樹や葉色の濃い樹、新梢伸長の旺盛な若木やフリー一樹、無核巨峰には施用しない。